発行日：
２０１４年４月１日

明治学院大学心理学部　白金心理学会報

さいころ

第6号

2013–2014

白金心理学会イベント

- 2013年6月9日
  白金心理学会第6回大会：総会、2012度研究成果報告、2013年度研究奨励費獲得者プレゼンテーション、博士課程修了生（榊原佐和子さん、飯田敏晴さん）による講演、大日向雅美先生講演「子育てと現代社会」、懇親会　開催
- 2013年5月22日、23日
  在学生部会SC第9回キャリア支援シリーズ「個別相談会」 開催
- 2013年6月29日
  在学生部会SC第10回キャリア支援シリーズ「私、院に行きます。2013」 開催
- 2013年7月10日
  在学生部会SC第11回キャリア支援シリーズ「第1回いっしょに食べよう！院生とごはん」開催
- 2013年12月2日、5日、12日　在学生部会SC第12回キャリア支援シリーズ「院進学Q＆A」開催

目次：

会報第6号に寄せて	1
白金心理学会第7回大会のお知らせ	1
在学生部会活動報告	2
第6回大会報告	2
研究奨励事業報告	3
大日向雅美先生講演「現代社会と子育て」	3
博士号取得者講演	4
先輩にインタビュー！！	5
新任教員のご紹介	6
事務局よりお知らせ	6

会報第6号発行に寄せて

花田　安弘　学会長（心理学部長）

皆様、こんにちは。今年度より学会長を務めることになりました花田です。よろしくお願いいたします。白金心理学会も今年で設立７年目に入り、その活動もますます充実してきているのは、学会員皆様のご支援の賜物であり、有り難く篤く御礼申し上げます。

卒業生と在学生と教職員を結ぶこの白金心理学会は、年1回の大会開催、会報「さいころ」の発行、研究奨励事業、在学生部会によるキャリア支援活動など様々な活動を行っています。これまでの文学部心理学科、心理学部心理学科の卒業生に加え、この４月からは新たに教育発達学科の第１期卒業生の皆さんも卒業生会員にお迎えすることになり、これまでよりも幅広い会員から成る学会として発展していくよう、努力したいと考えております。

文学部心理学科として発足した心理学科も、現在は２学科の心理学部として発展してきました。卒業生の皆さんの入学年度や学科はそれぞれ異なっていても、大学での４年間に授業やサークル活動などを通じて学んだことが様々な形で仕事にも生かされているのではないでしょうか。心理学科の卒業生の皆さんは、特に心理学とは関係のない普通の民間企業に就職されている方が殆どでしょう。そのような卒業生の皆様は、何らかの形でビジネスに活かせるような心理学を求めておられるかもしれません。また先にも述べた通り、今年から教育発達学科の第１期生の皆さんも卒業生会員となられます。教職に就かれた方々は教職のキャリアアップにつながるような活動も求めておられることでしょう。そのような対応も幅広く考えていかねばならないと思います。

花田　安弘先生

白金心理学会の大会は今年は６月８日に開催される予定です。同窓生や教員に会う良い機会でもありますので、同窓会を兼ねて、多くの卒業生の皆様が誘い合わせてご参加いただけることを願っております。これからも白金心理学会へのご支援をよろしくお願いいたします。

白金心理学会第7回大会のお知らせ

出井　雄二先生（教育発達学科准教授）

みなさん、こんにちは。この冬は大雪に見舞われたりと、ひときわ寒さの厳しい日が続きましたが、いかがお過ごしでしょうか。さて、白金心理学会第７回大会が６月８日（日）に開催されることになりました。今回は大会テーマを「Do for others のこころをかたちにー見えない障がいから考えるー」として企画を考えました。

前回大会に引き続き「参加しやすい大会」、「参加してよかった大会」をめざして、内容や演者の選定に工夫を凝らしました。

まず、総会では白金心理学会のさまざまな活動と計画についてご報告いたします。

続いて、第５回大会より始めた研究奨励費獲得者の研究成果報告と今年度の獲得者による研究計画の発表があります。これは白金心理学会として研究を奨励する意味で１件につき５万円の研究奨励費を交付するものです。今年度からは、活動奨励費という枠（１件２万円）も設け、よりハードルを低くして調査や実践的な活動にも補助をしていくことになりました。

次に、昨年度、大学院心理学研究科博士後期課程で博士号を取得した上野さんの講演です。「心理臨床家の動機と心理臨床活動における困難および満足感との関連－志望動機のタイプ『苦悩型』と『消極型』に着目して－」という演題（仮）でお話をいただきます。

次に、新しい企画として学部や学生の最新の動向をみなさんに紹介する場を設けました。今回は昨年度末で終了した教育ＧＰに関する最終報告と、学内外で表彰を受けた学生の紹介を予定しております。

そして今大会のメイン企画として、Twitterの声より生まれた見えない障がいバッジ活動の運営者をお招きしご講演頂き、学生たちによる見えない障がいバッジ広報活動の報告、学内の学生サポートセンターの方にご講演頂くといった内容を予定しております。

また、これまで好評でしたティー・ブレイクの時間も設けました。話題提供者への質問はもとより、お世話になった先生に近況を報告するなど、有意義にお使いいただければと思います。

もちろん夕方からは例年と同じく懇親会も予定しておりますので、こちらも是非ご出席ください。同級生、先輩後輩、教員との親睦を深めていただければと思います。多くの方の参加をお待ちしています。

第9回キャリア支援シリーズ「個別相談会」

本学大学院生が学部生の進路の悩みに丁寧に答えていました。今回は院進学希望者に限定せず、院生と学部生がお互いに良い刺激を受けた会となりました。

私、院に行きます2013の様子

第10回キャリア支援シリーズ「私、院に行きます2013」

本学大学院生による全体説明の後、個別相談会が行われました。悩みが解決したなどの感想が聞かれ、学部生にとても好評でした。

第11回キャリア支援シリーズ「一緒に食べよう！院生とごはん」

大学院生と学部生の交流を目的にした新企画です。ご飯やお菓子を食べながら楽しく会話も弾んだようです。

第6回大会の様子

第6回大会

席がほとんど埋まるほど多くの卒業生、在学生が参加しました。登壇者の話の講演に熱心に耳を傾け、質問が積極的になされ、とても有意義な大会となりました。

在学生部会活動報告

油井　聡太（在学生部会SC）

こんにちは、白金心理学会在学生部会SCです。2013年度の活動を報告します。

在学生部会では、新入生の支援を目的として4月にフレッシャーズ研修を、6月に心理学科スポーツ交流会、5月と12月に教育発達学科スポーツ交流会を開催しました。フレッシャーズ研修では学校生活のガイダンスと、クラスごとに分かれてクラスアドバイザーの先生方とミーティング、ソーシャルスキルトレーニングの一環として都ホテルでの食事会も行いました。また、新入生の抱いている様々な疑問や不安に対して相談の場も設けました。

スポーツ交流会では、体を動かしながら、新入生同士はもちろん、先生方や、SCとの交流も深められる機会となりました。

6月に開催した白金心理学会第6回大会では、当日の準備や運営を行いました。12月には、白金心理学会ホームページの「ゼミ情報」を更新しました。昨年と同様に“ゼミ生の生の声を聞きたい”ということで、各ゼミ長を中心に執筆していただきました。

12月には、3日間にわたり、キャリア支援イベント「院進学イベント～院進学Q&A～」を開催しました。臨床、教育、基礎領域の大学院生、進学予定者をお招きし、進学に向けた勉強法や、大学院での生活についてお話をして頂きました。教育領域：菊池夢二さん、臨床領域：田村朋子さん、山田佑紀美さん、基礎領域：須藤竜之介さんにご登壇頂きました。貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

1月から新たなメンバーも加わり、活動の幅がさらに広がると感じています。例年行われているイベントを充実させることは当然ながら、新たなメンバーの意見を取り入れつつ、心理学を学ぶ学生のより一層の充実の為に、これまで以上に精力的に活動できるよう、一丸となって頑張りますので、今後ともよろしくお願いします。

第6回大会報告

中井　あづみ先生（心理学科准教授）

第6回白金心理学会大会が、2013年6月9日に2301教室で開催されました。「こころを育てる」をテーマに、卒業生、修了生をはじめ学部生や大学院生、教職員など150名を超える参加があり、活発なやり取りが行われました。懇親会は本館10階の大会議室で開かれ、86名が参加しました。立場や年代によらず談笑し合うさまがそこここで見られ、料理も好評で、盛会のうちに幕を閉じました。

プログラムは大きく2部構成でした。会員の学術的な取り組みと外部講師による講演です。会員の取り組みも、研究奨励費に関する発表と博士号取得者の講演の2つでした。

研究奨励費事業は2年目に入り、前年度の獲得者3組による成果報告がまず行われました。いずれも分野や専門を活かした積極的な取り組みでした。今年度の獲得者3組による発表が次に行われました。

研究奨励費は会員であれば人数、領域など形は問いません。気軽にご応募ください。

博士号取得者の講演では、榊原佐和子さんと飯田敏晴さんが博士論文の要旨を講じました。恋人への暴力やエイズといった現代的なテーマに迫る研究過程に、学部生が聞き入っていました。

第5回大会でも好評だったティーブレイクの後は、大日向雅美先生の「子育てと現代社会」についての講演でした。子育てにかかわっている1人1人から行政に至るまで向けられる心理学に裏打ちされた支援や提言、今なお残る母性愛神話に科学的な異議申し立てを続けられる姿勢など、研究者として、実践者として居住まいを正される思いでした。親しみぶかくユーモアに富んだフロアとのやり取りもありました。

大会プログラムについてはそれぞれ詳しい記事が別に掲載されていますのでお読みください。本学会のホームページにも画像入りの報告があります。

次回の第7回大会は、「Do for others のこころをかたちに－見えない障がいから考える－」をテーマに2014年6月8日に開催予定です。会員の多様な活動を紹介するなど、さらに参加しやすい大会をめざします。ぜひご参加ください。

研究奨励事業報告

川端　一光先生（心理学科専任講師）

白金心理学会研究奨励費事業に関して3点ご報告します。

1．2012年度奨励費受給者による研究成果報告について

2012年6月9日に開催された白金心理学会第6回大会にて、2012年度奨励費受給者による成果報告がなされました。心理学科4年の櫻田みのりさん(他16名)による「好きと嫌いの判断と視覚の関係」、心理学科4年の永冨まどかさん(他1名)による「恋愛行動と季節の関係性」、博士前期課程2年の狩俣華子さん(他2名)による「領域や理論を超えた臨床心理士の卒後研修の事例分析」の3件について、各研究の代表者が成果報告を行いました。また学会終了後、成果報告論文が提出されました。これらの論文は学会HPにて要旨を公開する予定です。

2. 2013年度研究奨励費受給者の決定と研究計画の報告

2013年度は研究奨励費の募集に対して3件の応募がありました。厳正な審査の結果、この3件への支給が決定されました。支給対象となったのは、心理学科3年の田村豪さん(他16名)による「WEBページにおける探索時間とユーザビリティの関連性」、心理学科3年の村松佳美さん(他6名)による「『かわいい』がポジティブ表現として機能する要因」、博士前期課程1年の室井猛さん（他3名）による「出生順位が性格に及ぼす影響」の3件です。白金心理学会第6回大会では、この 3件の研究について計画の詳細が報告されました。

3.「活動奨励費」スタートのお知らせ

2014年度より、現行の「研究奨励費」に加え「活動奨励費」の支給を開始します。研究奨励費は心理学部3年生以上に応募資格があるのに対して、活動奨励費は全学年生に資格があります。心理学・教育学・障害科学に関する現象について、グループで調査活動したい、支援活動したいという方は、気軽にチャレンジして下さい。活動奨励費の詳細については学会HPをご覧ください。

今後も、白金心理学会では、皆様の研究活動を支援していきます。積極的なご応募をお待ちしております。

研究奨励費獲得者によるさまざまなテーマに沿った発表が行われました。参加者からは、
「全てのプレゼンテーションが興味深かった。来年の研究発表が楽しみ」
「学部生が積極的に研究していて素晴らしい」
「同年代の方が真剣に研究に取り組んでいて、刺激になった」
などの声が寄せられました。

「現代社会と子育て」 大日向雅美先生講演

金城　光先生（心理学科教授）

招待講演では、「子育てと現代社会」をテーマに、恵泉女学園大学大学院教授でNPO法人子育てひろば「あい・ぽーと」施設長でもある大日向雅美先生にご講演いただきました。先生は、発達心理学がご専門で、これまでに子育てや母性神話についての数多くの著書を執筆されていらっしゃるほか、文部科学省・厚生労働省・内閣府などの子育てに関する国の施策を検討する審議会委員も務めてられています。

ご講演では、育児不安、仕事か子育てかの二者択一構造、一人親の問題、待機児童問題など、日本社会が抱える今なお厳しい子育ての現状をふまえ、子育て支援や少子化対策をどのようにしていくべきなのかについて、豊富な資料にもとづき子育てを支える政府の取り組みとその問題点やご自身の子育ての時のエピソードも交えてお話いただきました。政府の取り組みとしては、たとえば「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」などが紹介されました。日本では、今でも約6割の女性が出産・育児を機に両立が難しいなどの理由で退職してしまうのが現状で、このような問題の解決には父親の育児参加が不可欠であり、男性にこそワーク・ライフ・バランスが必要であることを強調されていました。

子どもは社会の宝であり、すべての子どもを対象として、父親母親問わず、世代を問わず、地域や社会全体で子育て支援を行っていくことが子どもの健やかな成長につながっていくことの重要性を力説されていました。また、このような理念だけではなく、先生が施設長をされているNPO法人では、地域に住む団塊世代の前後の男性に子育てに参加してもらう実践的な試みも行われており、一つ一つのお言葉に非常に説得力がありました。

優しい穏やかな語り口の奥に秘めた次世代育成支援にかける熱い思いが伝わる講演会で、フロアからもたくさんの質問が寄せられたあっという間の密度の濃い有意義な２時間でした。

大日向雅美先生

大日向先生の講演に参加者からは、
「現代社会の子育てについて、様々なデータや母親の声などを踏まえて語って頂き、大いに関心が持てた」
「まだ問題は多いが、子育てについて社会が変わってきていることを知れて良かった」
「子育てに関する不安やネガティヴなイメージが大きく変化した」など、反響の大きさがうかがえる声が多数寄せられました。

大学院心理学研究科博士後期課程　博士号取得者講演

エイズ相談促進の為の健康信念モデルに基づいた検討

飯田　敏晴

飯田敏晴さん
講演の様子

膨大な博士論文を、30分という限られた時間の中で、わかりやすくコンパクトに講演して頂きました。時間がもっと長く確保されていればという声も寄せられ、皆さんの関心の高さもうかがえました。
他にも、
「これからの社会においても課題となるテーマを取り上げていて、興味を持った」
「研究に厚みがあって、博士論文はやはり違うと思った」
「思ったより馴染みがある内容ですっと入ってきた」
などの声が寄せられました。

私は、人々が、エイズ相談を利用しようとする意思決定に関わる心理的要因を明らかにし、さらに、この利用を促進するための検討を行いました。今日はその一部の結果についてお話ししたいと思います。

本邦でのヒト免疫不全ウィルス（HIV）および後天性免疫不全症候群（AIDS）の新規報告件数は、毎年1000件以上です。その感染経路は、性行為を行う可能性のある全ての男女に感染のリスクがあります。わけても、HIV/AIDSの治療における早期治療開始による治療効果に加え、二次感染拡大防止という意味での予防効果も示されている以上は、それをより早期に同定していくことは喫緊の課題と言えましょう。この課題を解決するためには、人々の医師、保健所、電話相談の利用という行動を促していくことが不可欠なので、本研究は、これに焦点を当てました。

具体的には、健康信念モデル（Becker, 1974）に基づいて、エイズ相談の利用に関わる4つの要因に注目し、その関連を検討したのです。すなわち、HIV感染の「重大性」「罹患性」の認識、さらに、エイズ相談実行への「利益性」「負担性」の認識です。いくつかの指標は、日本にはなく、新たに作る必要がありました。また、本邦では、標準とされる予防的介入についても、実際に効果があるかについては数量的には未検証であったので、これを行ないました。5つの質問調査および1つの介入実験を行いましたが、検討の結果、仮説は概ね支持され、エイズ相談の利用を促進する際に、健康信念モデルの枠組みから捉えていくことの有効性、さらに、新たに作成した（使用した）指標の有用性が示されました。

この研究は、今後、実証に基づいた実践（evidence based practice）を展開していくうえでは基盤となるものです。エイズ教育の二本柱である感染予防教育と共生教育のどちらをも脅かさない予防的介入のあり方について、引き続き検討していきたいと考えています。

恋人への暴力生起に関わる認知要因：「デートバイオレンス加害モデルに基づく検討

榊原　佐和子

榊原佐和子さんと
紹介者、山崎晃先生
（心理学科教授）

交際関係にそのポジティブなイメージに反する暴力が存在していることが近年明らかになっています。恋人への暴力である「デートバイオレンス」に関するモデルはこれまで確立されてこなかったため、本研究では攻撃性や怒りに関する先行研究を参考に恋人への暴力加害行為に関する仮説的モデルを作成しました。このモデルには、「デートバイオレンス受容態度」「恋人関係規範」「怒り反すう」、さらに交際関係における状況の解釈といった「オンラインの情報処理過程」が含まれています。海外の先行研究に倣い実際の恋人への暴力経験とこの加害モデルに含まれる要因との関連を検討し、その後「場面想定法」を用いて恋人への暴力加害行為に至る個人内生起過程を検討しました。

その結果、恋人の行動の原因を恋人の故意によるものあるいは恋人の愛情が低下したためと解釈した場合には、恋人にはその行動の責任はないと解釈した場合に比べ、より強い怒りが喚起され、怒りが喚起されると、恋人に対して攻撃したいという願望が生じ、その結果、恋人への暴力加害行為に至るという過程が確認されました。より強く恋人を束縛・独占するべきだという規範を持つことは、より強い怒りを喚起する可能性につながり、最終的に恋人への暴力を生起させる可能性を高めていました。特に男性の場合にこの傾向が顕著でした。女性の場合は恋人以外の異性と身体接触をするべきではないという規範が強いほど、より強い怒りを喚起していました。また、「デートバイオレンス受容態度」「怒りの反すう」は、男女とも最終的に恋人への暴力生起に影響を及ぼしていました。

本研究結果はこれまでほとんど明らにされてこなかった恋人への暴力加害行為に至る過程を明らかにし、今後、本結果に基づいたより効果的なデートバイオレンス予防やデートバイオレンス加害者への臨床的介入の可能性が示されました。

先輩にインタビュー！！

渡邊峻平・鳥羽美衣（在学生部会SC）

今回私たちは、映画監督として活躍されている山本清史さん（97PS生）にインタビューしました。山本さんはとても気さくな方で、私たちが緊張している中、終始笑顔で接していただきました。

【1454教室にて】

―なぜ映画監督という職業を選んだのですか？

職業を選んだというより、普通に就職活動ができないと思ったんですよね。昔は社会を馬鹿にしてて、一般社会に溶け込めないと思ってたので。けど、一応文芸部で部長してたから出版は好きで、某出版社を受けてみたんだけど、ダメだった。そこで、他に何ができるかと考えて、文章を書くのが得意だったから、それでやっていく道を考えた。でも当時、文章を書く世界が嫌にもなってて。変わっている人、自分に似たような人が多いから、付き合いづらいかと。他に、役者ってのも考えたんだけど、絶対ジャニーズには勝てないし、今さら始めてもってこともあり、そうなると、監督とか演出だ！と考えた。しかも、演出をやっている人を数えてみたらあまりいなくて、競争率も低いし、戦える！と考え、監督になろうと22歳から始めました。大学卒業して3年ぐらい独学で勉強して、自分で書いた脚本持って営業とかもして。25歳のときに、脚本を探しているって人を紹介してもらったのをきっかけに、ホラーを撮り始めました。だから、職業として選んだっていうよりも、他にやれることが無かったって感じですね。

――どのように映画監督になったのですか？

専門に通うお金があるなら、映画を撮るって考えていたので、とにかく実践しました。映画監督になりたいって人は、小さいころから親のカメラ持って撮ったりしている。でも僕は、見る側から入っているから全然路線が違うし、仕事にするというのが頭にあるから、なるべくお金を使わないようにと。学ぶ方法はいくらでもある、専門で学んできている人よりも僕の方が才能あるって思い込んでいたんですよね。それで、ネットで人を集めて自主映画を作ってカメラワークを学んだり、編集を学んだり。そうやって映画を作っていく中で、映画ってこうやって作るのかと納得できるとこまできたから、いつまでも自主映画撮ってても仕方ないと思い、営業し始めました。ここで、職業として映画監督になると選んだって事になるかな。でも、なかなか僕みたいな風にこの世界に入る人は少ないかな。この仕事10年くらいになるけど、会ったことない（笑）普通は、賞を取ったり、ある監督に弟子入りしたりってことが普通なんだけど、僕はそれをしなかったからね。

――最初からホラーだったのですか？

いや、全然違う作品で。その時は自分の好きな感じの作品を書いて、見よう見まねで企画書を書いて営業回ったけど、日本では全然当たらないジャンルだったのね。だから誰も声をかけるわけないんだけど、そういう若い人って嫌いじゃないのよ、この世界って。常に若手は求めてるし、新しい視点持った人を探しているから、面白がる人は少なからずいた。それで仕事に繋がったんだよね。

――映画を撮る時のこだわりはありますか？

これは、高校生の時や文芸部で作品を書いていた時から変わらないんだけど、「人の生と死、生きることと死ぬこと」他のテーマには、全く興味が無くて。例えば、恋愛ものにある、失恋して自殺したくなるとかじゃなくて、もっとこう、生きたいとか死にたくないってことが好きなんだよね。だから、だいたい暗い話が多いですね。

――心理学をやっていて映画に活きたなって思いますか？

映画には活かせるとは思うんだけど、活かせる局面はなかなかないな。やっぱりこの業界、偏執的な人も多くて。例えば、性的・暴力的なことに異常に興味があったりする人が、映像を撮ることによって解消できなかったら、がちで危ないよねって。そういう意味では、フロイトをいま直で見ているなって思ったことはある。そういう追体験はあるけど、新しい発見はないかな。

あとは、社会にうまく適応できない人がいて、周りもなんかあいつこうだよねって言う時に、それって実はこうこうって心理学で言われてますよって伝えられるとその人を守れるというのがあるかな。演出やろうという人は、表現することしか興味がないからだいたい周りと軋轢が生まれるのね。特に若い奴だとやんや言われて余計意固地になったり爆発したりするから、それをこういうこともありますよと伝えてあげられる、ということはあるかな。

山本さんはこの他にも様々なお話をしてくださいました。大学当時のお話や山本さん独自の考え方に触れ、ためになったと同時に考え方の視野が広がったように感じます。全てを載せることはできなかったことが残念です。山本さん楽しいお話ありがとうございました。

山本清史さん プロフィール

2000年　明治学院大学文学部心理学科卒業（花田ゼミ）
2004年　映画「ほんとうにあった怖い話　怨霊　劇場版」でデビュー
2006年 映画「水霊 ミズチ」を全国公開
2007年 ドラマ「のぞき屋」を脚本・監督
2009年 映画「学校裏サイト」を原作・脚本・プロデュース
2010年 日米合作映画「END CALL」を公開
　他にも、映画、ドラマ、アニメ、ゲームの脚本・監督・演出等、多数手がけ、
2013年 合同会社C.A.S.E設立
　最新の活動としては、テレビ東京　連続ドラマ「大東京トイボックス」を監督

（左）山本　清史さん
（中央）鳥羽　美衣さん
（右）渡邊　峻平さん

撮影　栗原　貴子さん

新任教員のご紹介

川端一光先生

川端一光 先生　2013年4月に心理学部心理学科に着任しました川端一光（かわはしいっこう）です。専門は心理統計学・教育測定学です。前職は、大規模言語テストデータの為の、データサイエンティストで、 都内の独立行政法人に勤務していました。統計関連の授業を担当しているせいか、堅い印象を持たれているようですが、常に、学生さんと交流したいと思っています。最近の趣味は、都内の地ビール屋さん巡りです。これからも宜しくお願い致します。

渡邉流理也先生

渡邉流理也 先生　昨年の5月から教育発達学科でお仕事をしています。授業では、特別支援教育臨床実習や特別支援学校教育実習の補助などを担当しています。私の専門分野は、特別支援教育学で、特に重度の障害を持つ子どものコミュニケーション支援について研究を行っています。授業の補助に入った時など、気軽に声をかけてください。よろしくお願いします。

中村敦雄 先生　2013年12月に、群馬大学教育学部国語教育講座から、教育発達学科に着任しました。専門は国語科教育学で、ことばや国語の授業に関わるあらゆるテーマに興味があります。授業は見るのも、するのも、ともに大好きです。このところ歌舞伎を深く愛しておりまして、白金キャンパスから歌舞伎座まで地下鉄一本ですぐ行けるので、とても喜んでいます。どうぞよろしくお願いします。

中村敦雄先生

事務局よりお知らせ

〇白金心理学会第7回大会のご案内

来る2014年6月8日（日）13：00から白金校舎において「白金心理学会第７回大会」を開催いたします。当日は懇親会もございますので、同期の仲間や後輩たちに会ういい機会になれば幸いです。皆様お誘いあわせの上ご参加下さい。（大会・懇親会共に当日参加も可能ですが、資料、料理の手配の関係上、白金心理学会ＨＰからの事前申し込みにご協力ください。なお、懇親会のみ有料です。）

〇教員からのお知らせ

2014年3月にて、岩辺泰吏先生が退職されました。

今年度のサバティカルは緒方明子先生と金沢吉展先生です。今年度は出校されませんので、ご注意下さい。

〇心理学部心理学科　田中知恵ゼミ（演習１）の3年生8名による論文が『第1回広告学会関東部会学生広告論文大賞』において、銀賞を受賞しました。

菅原大希さん、小原杏奈さん、志田千沙都さん、鈴木芽生さん、高橋菜美さん、
豊田彩菜さん、西沙也加さん、柳原佳奈さん

「時間に対する心理的距離感が広告の説得効果に及ぼす影響：解釈レベル理論による検討」応募したきっかけは、田中先生からの案内だったそうですが、いい経験になるとゼミで一丸となって取り組んだそうです。予想外のアクシデントに苛まれながらも、１限が始まる前や昼休みなども活動を行い、みんなでパソコン室の閉館時間までデータと睨み合いをしたこともあったそうです。努力のかいあっての受賞に喜びもひとしおとのこと。おめでとうございます。

〇卒業生のみなさまへ　白金心理学会にご入会下さい！

すでに心理学部および心理学研究科の皆様には入学・進学時にリーフレットを配布しご案内しておりますが、在学期間中は学会費として一人年間2000円をお預かりしております。

卒業生の皆様におかれましても、この機会に是非ご入会下さいますようお願いいたします。

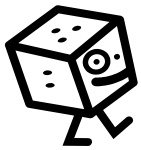
お預かりした会費は、次のような活動の費用に充てられます。

①心理学部（前身諸学科含む）卒業・修了生、教員、在学・在院生、との交流会の企画および運営
②在学・在院生、卒業・修了生のキャリア支援のためのイベント企画及び運営
③心理学部（前身諸学科含む）、心理学研究科名簿管理
④年次大会・総会開催、会報発行、講演会企画及び運営
⑤白金心理学会に関わる広報活動

ご不明な点は、白金心理学会事務局までご連絡ください。皆様のご入会をお待ちしております。

〇卒業後の住所変更登録にご協力下さい！

卒業時から住所が変わっている方、また、ご実家の住所が変わっている方は、白金心理学会事務局にご一報ください。住所変更登録は白金心理学会HP「卒業生へのお願い（連絡先変更登録）」ページで登録できます。ご協力をよろしくお願いいたします。



白金心理学会
イメージキャラクター
「さいころくん」

発行：
明治学院大学心理学部
白金心理学会 事務局

〒108－8636
東京都港区白金台1－2－37
明治学院大学
心理学部共同研究室内

TEL＆FAX:
03(5421)5814
問い合わせ用E-mail：
shinro@psy.meijigakuin.ac.jp

白金心理学会第7回大会参加申し込み及び住所変更は下記URLまで
URL：http://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/